

6月避難訓練 実施案

堀船小学校 生活指導部

1 ねらい

- ・第二昇降口が使用不能の場合の安全な避難の仕方を身に付けさせる。
- ・消防署と連携し、消火器の扱い方を学ぶ

【想定】

- ・わくわくルーム（学童クラブ）出火。

【避難場所】

- ・校庭（体育館前） ※雨天時 体育館

2 日時

6月14日(金) 9:55～10:25(2校時授業中)

3 準備物(担当)

放送(副校長) 本部旗・メガホン・児童数確認票(副校長) 出席簿(担任) 足拭きマット(主事)
消防署への連絡、消火器訓練のための準備(コーンなど) (担当)
(5月中旬頃に王子消防署に連絡し「自衛消防訓練通知書」をFAXする)→済

4 避難経路の制限

第二階段、第二昇降口は使えない。 ※教室によって安全かつ素早く避難できる最適ルートを選ぶ。

5 校内巡視の担当

1階…事務(事務室) 2階…主事 3階…主事 4階…主事

6 訓練の実際

	時間の推移	・児童の動き	○教職員の動き
避難訓練	【事案発生】 「訓練。訓練。火事です。わくわくルームより火災が発生しました。校庭に避難します。第二昇降口(第二階段)は使えません。防災頭巾をかぶり、ハンカチで口を押さえます。担任の先生の指示に従い、おかしもの約束を守って避難します。避難開始」 ※2回繰り返す。 【避難】 【人員確認】 【学校長の話】 【消防署の方の話】	・伝達内容を聞き、状況を把握するとともに、これからどのように、避難するかを知る。 ・防災頭巾をかぶり、整列する。教職員の指示に従い、校庭に避難する。 ・煙の害を想定し、口をハンカチで押さえ、姿勢を低くする。	○窓を閉める。カーテンを開ける。 ○異状の有無に関係なく、校舎内の巡視をする。→本部に報告する。 ○出席簿の学級表示を児童に向けながら避難誘導する。 ○人員を確認し、本部に報告する。「○年○組 在籍○名、欠席○、異状なし。」 ※防災頭巾は持って、講話を聞く。 ○先生2人が見本を見せる。
事後指導	【教室へ戻る】 1・2年→3・5年→6年 (4年生は消火訓練の後戻る) ふりかえり	・上履きのまま避難しているので、汚れをよく落としてから校舎内に入る。 ・安全に避難できたか、ふりかえりをする。 ・ふりかえりカードを書く。	○上履き用の足拭きマットを用意しておく。

7 留意事項

- ・煙の害を想定し、口をハンカチで押さえ、姿勢を低くする。
- ・身近にある場合、防災頭巾、ヘルメットを着用する。
- ・児童不在があった場合、担任または学年の先生が校内を点検する。
- ・本部を体育館前に設定する。(わくわくルームから出火のため)

※異状の有無に関係なく、校舎内の巡視をする。

1 階（事務） 2 階（主事） 3 階（主事） 4 階（主事）

※図工、音楽、さくら、日本語の授業中は、避難場所で担任が児童を引き継ぐ。

※少人数算数は各担当が誘導し、本部でクラス毎に並び直す。

※火災：窓を閉める。カーテンを開ける。

・・・延焼を最小限に抑える、外から救助する時、室内に逃げ遅れた人がいるか確認するため。

また、消火の際カーテンが閉まっていると水が火元に届かなくなるため。

※地震：窓を開ける。カーテンを閉める。（できる限り）

・・・避難口確保、窓ガラスが割れた際の飛散防止のため。

※雨天時の場合は、消火器は中身が空気になっているものを使用する。

8 消防署との連携

※教職員（代表数人）と4年生全員が消火体験

避難訓練終了後、王子消防署の方にご指導いただき消火器訓練をする。

最初に教職員が全校児童の前で消火器を使用し、消火体験を行う。

（消火器訓練は5人1組で行う。事前に全校児童の前で訓練をする教職員2名を決めておく。）

※消火器訓練

はじめに消防署の方から、消火器の使い方の説明を聞く。

その後、実際に火事を想定して児童と教職員で消火の体験をする。

児童はその様子を見て、消火器の使い方や行動を学ぶ。

（＊雨天時は、消火器の中に空気を入れたものを準備。体育館で空気を出して訓練。）

4年生は事前に消火器訓練をする順番を決めておく。（担任を含む）

5人もしくは4人で1組となり、消火器訓練をする。（5人×10＋3人）

【追加点】

- ・日本語教室の人員確認も行う。